

## 令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立宮田小学校 教諭 谷井 暢太

1 派遣期日 令和5年 5月 30日(水)

2 派遣先 守谷市立黒内小学校(守谷市中央公民館)  
〒302-0110 住所 茨城県守谷市百合ヶ丘2丁目2349

### 3 研修内容

#### (1) 黒内小学校の授業公開

ア 6年5組 社会科「武士の世の中へ」

電子ノートアプリを活用した協働的な学びによる、武士のくらしの特徴に着目して伝える活動。

- ・「電子ノートアプリ」(MetaMoji)のグループ機能を活用した共同作業やモニタリングによる共有を行う。
- ・「電子ノートアプリ」(MetaMoji)を活用した学び合いにより、自分なりの考えを深め、探究的な学びにつなげていく。

イ 5年3組 学級活動「デジタル・シチズンシップって～オンラインコミュニケーションについて考えよう～」

複数のアプリケーションを活用した協働的な学びによるオンラインコミュニケーションの課題解決。

- ・Google Classroomのチャット機能を活用して役割演技をさせ、課題意識を持たせる。
- ・「電子ノートアプリ」(MetaMoji)のチャット機能を活用した話し合いを通して、インターネットでのやりとりについて考える。

ウ 4年4組 社会科「人それぞれにあった(サザエさん一家)防災グッズを選ぼう」

電子ノートアプリやその自作教材を活用した協働的な学びによるサザエさん一家の防災グッズの提案。

- ・「電子ノートアプリ」(MetaMoji)を活用して、サザエさん一家に合った防災グッズをグループごとに選ぶ。
- ・「電子ノートアプリ」(MetaMoji)を活用したペア・グループでの話し合いを経て、「防災グッズカード」(デジタル教材)を使ったサザエさん一家の防災グッズを提案する。

#### (2) 全体会「ICTを活用した学校ニューノーマル」

「もりや型教育改革の提案 ～学習効果の最大化と働き方改革の両立～」をテーマとした発表会で、これまでの守谷市における教育改革の取組についての紹介が行われた。

守谷市立黒内小学校では、「電子ノートアプリ」(MetaMoji)等の様々なアプリケーションを活用した授業、守谷市立守谷中学校では、多面的・多角的な考察を促す思考ツールの活用や、系統的な学習の積み重ねを生かした、英語科における実践的なコミュニケーションの授業についての講評が行われた。

市内小・中学校の3名の校長先生より、「もりや型教育改革」「中学校における教育改革(部活動改革・校内フリースペース)」「ICTを活用した学校ニューノーマル」の3つのテーマに分けて、これまでの守谷市における教育改革についての実践発表が行われた。

総括では、講師として文部科学省初等中等教育局財務課校務改善専門官の佐藤悠樹先生の講話が行われた。「教育の質の向上と持続可能性の両立」「対話と納得感」「公教育の可能性」の3つの柱に沿った講話だった。

### 4 感想

黒内小学校の授業公開では、学習効果の最大化と働き方改革の両立がテーマとして掲げられていたので、今回見学できた3つの教室全てがICTを効果的に活用しており、参考にしてい

きたいと思う点がいくつもあった。

1つ目は、どのクラスも「電子ノートアプリ」(MetaMoji)を中心に活用していたことである。グループの共同作業や意見の共有、資料の配付などが、統一したアプリを使って行われていることが印象的だった。アプリを統一することで、教員同士の情報交換や教材の共有、授業での活用が円滑に行われるだけでなく、子ども達がタブレットを使用する際、操作の難易度のハードルが下がることも利点として挙げられる。

2つ目は、ICTを日常的に用いて、働き方改革にも活かしているという点である。朝の出欠連絡などを一本化して、電話対応を減らすだけでなく、他クラスの状況も一括で確認できるなど学校運営の土台的な仕組みにおいてもICTが浸透している様子がうかがえた。

3つ目は、市内でICT機器やアプリ、学校内の組織的な仕組みを統一しているという点である。こうすることで、他校での実践を容易に取り入れることができるようになることや、教員の異動や児童の小学校から中学校への進学時のギャップが少なくなることが考えられる。

このような利点が、学習効果の最大化と働き方改革の両立を支えていて、ICTが日常の中に溶け込んでいるように感じられた。

全体会「ICTを活用した学校ニューノーマル」においては、一教員的な視点での発表ではなく、管理している校長視点での発表であったことが、学校のあり方を考える上で勉強になった。

まず、「もりや型教育改革」を市として行うにあたって、市長や教育長、各学校の校長が連携して、教育にかける財源をきちんと確保しているからこそ、今の守谷市の体制が構築されていることがわかった。他の市町村の模倣ではなく、国からの方針をどのように実現していくかを考え、計画し、実践していく実行力があり、県や全国を引っ張っていくというような勢いが感じられた。

また、授業時数においても夏休みの期間を短くすることで、通常の日課で5時間授業を多くするカリキュラムを組むことや、部活動における活動時間の管理や教員の負担軽減も市として考えられており、働き方改革と真摯に向き合っている姿勢を感じた。

今回の先進校調査を通して、学校全体が授業で使えるICT機器やアプリの使い方の紹介の研修を行うことで、誰もがICTに対する抵抗感をなくして日常的にICTを使うようになることが、自分でもできる実践だと考えた。学校の課題研究である「ICTを活用した協働的な学びによる思考力、表現力の育成～考えの共有、発表方法の工夫を通して」の一環として、市内で使われているSKYMENUや誰でも使えるアプリとしてKahoot、Jamboard、Padletなどから、使用したい用途にあわせて研修を行った。



難しい作業を行うのではなく、児童側としての体験やログインの仕方、簡単な操作方法の説明、実際に使ってみるなど、スモールステップを踏んで職員全員で行うことで、次の日から、実際にクラスで試してみたなどの声を聞くことができた。



自分一人の力で、市全体の方向付けをしていくような大きなことはできないが、学校の雰囲気さらに良い方向に醸成したり、ICTに興味をもってもらったりすることはできるということが今回の先進校調査を機会として実感できたので、今後も自分でできることを共有したり発信していったりすることを念頭において教育活動に邁進していきたい。